

〈第7回〉学生と教員との対話集会

〈第7回学生と教員との対話集会〉

「学生と教員との対話集会」は、五十嵐キャンパス総合教育研究棟D棟大会議室において、平成18年12月7日（木）に、例年通り16時20分から2時間ほど行われました。この集会は、教養教育をテーマとしていた発足期からは7回目ですが、昨年新学士課程教育システム導入後、全学科目をテーマとしてからは2回目に当たります。今回は、学生43名、全学教育機構、各学部学務委員及び学務部職員22名、総勢65名の参加でした。

学生との対話集会は、あらかじめ学生から提出してもらった意見や要望を整理分類して作成した配布資料をもとに、その分類項目毎にまず濱口全学教育機構副機構長（大学教育開発研究センター長兼任）がコメントした後に、自由に討論する形で進められました。

集会の冒頭では、濱口センター長から、以下のような趣旨説明がありました。「皆さんご承知のように、大学には大きい問題・小さい問題、いろんな問題があるかと思います。そういうものを相互にこういう場でお話し合いをしながら、改善を進めていくというのが、この会の趣旨です。皆さんが、今日文書で出されたこと、それからこの場でお話になるようなことは、可能な限り我々としては改善できることは改善していきたいと、そういう意味で皆さん方も今日は建設的な意見をできるだけたくさんお話いただけたらと思っております。」

開会の挨拶に引き続き、第7回学生と教員との対話集会は、以下のように展開しました。

【0】大学全体の話

1. 学生からの質問へのコメント

質問：①新潟大学は、他の大学（特に国立大学法人）

と比較してどのような長所・短所があると認識していますか。また、それらをどう伸ばし、または改めるようにしています（します）か（教育）。

②ある先生は「大学生はモラトリアム層、学歴獲得層、研究層の3つに分けられる。新潟大学、ひいては日本の今後をよくするには研究層にターゲットを絞った授業や研究を展開する必要がある」という意見を出されましたが、現在の制度ではこれと合致する感じではないように思います。CAP制もゆとり教育のように、本来の目的とは大きく異なり、制度が空

回りしていると4年間思っているのですが…。大学側としては今後どのような方向性であるべきだと思いますか（教育）。

コメント：

回答というか、私共の方での意見というものを申し上げるということになろうかと思います。最初に大学全体の話ということで、2点あります。『ゼロ』というのを取敢て付けたのは、この二つは、いささか話が大きく、極論を言えば、私ごときが答えるというより、学長の所信表明をいただくべきことで、本来であれば、こういう短い時間でお話するよりも、もっと大きな問題だからです。ただ何も、ご意見申し上げないというのもおもしろくありませんので、一言だけお話ししたいと思います。

大学教授全体というのは、なかなか難しい状況にあるというふうに我々は思っております。学生の皆さん方がどれだけご存知かというのは、ちょっとわからないところもあるのですが、本学は今かなり大規模な教育改革を行っております。

どういう形の方向での教育改革をしているか。従来の高等教育は、特定の学問分野を教え、特定の学問分野について学ぶという観点から行われてきました。これを、学生さん達個人個人がきちんと勉強する、つまり21世紀の社会の中で、自分で考えて自分で創造的に勉強できるような、そういう人を作る教育体制にどういうふうにつくり直すかという観点で、今全体としての教育改革を進めているところです。21世紀型の大学教育体制づくりは、実は新潟大学だけのお話ではありません。非常に大げさな言い方をすると、高等教育全体のイメージが世界レベルで変わっていて、ヨーロッパの状況、アメリカの状況にみられるように、大学は現在かなり大きな変革期にあります。

そういう中で、皆さん方この4年間というのを大学で過ごされる、その4年間が実際に意味のあるものにするにはどうしたらいいか、を大学は大学なりに考えて教育改革を進めているところです。質問にみられる、「大学は「<モラトリアム層><学歴獲得層><研究層>の3層に分けられ、本学は「研究層」にターゲットを絞った授業や、研究を展開する必要がある」というある先生の意見そのものには、私は同意できません。学生さんはそれぞれです。実は今の大学には、いろんな目的を持った学生さんが入っている。それで、いろんな目的を持った学生の皆さんが、それぞれの目的なりに何かを得られる、最終的にはさつき申し上げたよ

うに、自分で自立して創造的に勉強を一生し続けていけるような、そういう基盤ができるような大学教育ができればというように思っています。この【0】の質問は、やや、というかかなり抽象的なお話しですので、こういうお答えにさせていただこうかと思います。

※このテーマに関する質疑応答なし。

【1】新学務情報システム

1. 学生からの質問へのコメント

質問：①なぜ新しいシステムに変更したのか。旧システムでも問題なく稼働していたので、変更する必要がなかったように感じます。(工)

②成績の得点分布が見たい。(経済)

③新しい学務情報システムになって、成績開示があった初期段階では、単位を修得できた科目に限り、60点以上の他学生の成績分布と自分の点数がまとめて見られるグラフが出るようになっていましたが、現在は見られません。なぜやめたのですか(教育)。学務情報の成績確認で「あと何単位、何が足りないか」を表示するシステムを構築して欲しい(農)。

④聴講受付について、教育人間科学部では「聴講票」を書いて持っていくことになっているが、他学部では「聴講票」の意味が理解されなかった。それぞれの学部がそれぞれ独自のシステムを持っていると思いますので、副専攻などで他学部に行く時に戸惑うこともあると思います。そういうことを回避するために、各学部の事務同志が情報交換していますか？教えて下さい。(教育)

コメント：

①番以降は比較的具体なお話です。それでまず①のお話は『学務情報システムについて』ということで、一応まとめてあります。

まずひとつは「なんでシステムを変えたのか」ということです。なぜシステムを変えたかというのは、実は今ちょっとお話ししていた新潟大学の新しい教育システムのことと、かなり不可分です。従来の『学務情報システム』というのは、かなり以前に作られた学務情報のデータベースがあって、そのデータベースの上にそれを見られるような「Webのシステム」を付けて作ってきたもの、ということです。だから、そのデータベースの構造そのものが、今実施しつつある新しい教育システムになじまない部分があって、根本から、データベースそのものから変えていかなければいけない、という認識で、新たなシステムに移したのです。

旧システムでも問題なく稼働していたので、というご指摘ですが、問題があって稼働しているようでは困

るのです。こういうシステムというのは常に問題なく動いてなくてはならないわけで、現実にはいろんな問題を含みながら動いていました。それを今回思い切って変えました。

新しいシステムには、いろんな機能が入っています。今のところ、さっき申し上げたように問題なく稼働することを中心にして、可能なシステムをかなり抑えた形で運用しています。すべてのシステムがきちんと運用できることを見定め次第、可能なシステムを運用したいと思っています。いろんなことができるようになるはずで、有効に活用していきたい、と考えています。

②の質問はもう少し現実的なことで、「成績の得点分布が見たい、一時見られたのに見られなくなったのは何故か」というものです。これはさっきお話しした安定的な運用に関係しています。新しい学務情報システムには得点分布を示す機能が付いております。何故付いているかと言うと、我々がそういうものが必要であると仕様書に書いたからで、その結果、特定成績分布が公開できる機能が備わりました。ただ、システム運用上この機能が非常に重たい部分があり、現時点では安全を考えて抑えて使っています。近日中に「成績分布」についてすべてWebで見ることができるようになりたい。次の試験(後期の試験)が終わった、その成績分布からはきちんと見られる形にしたい、と思っております。

③は、学務情報の成績確認で、あと何単位足りないのか、何が足りないのかを表示するシステムを構築して欲しい、ということです。これは、「うーん」というようなところで、実はこういう機能というのも、今の新しいシステムを作る際の仕様の検討では検討しました。もちろん、ひとつにはそんなことは自己管理の問題だからそこまで親切にする必要はないだろう、というような意見もありましたし、いろんなことを考えたのですが、最終的にはそういう表示するシステムの中には入れなかったということです。

それは何故かと言うと、新潟大学の中にはものすごく複雑な卒業システムがある。つまり、各学部・学科・入学年次、それぞれで卒業要件が少しずつ違っている、ということがあって、それを全部入れると極めて複雑なことになる。そのために、もうひとつは学生さんに間違っただけで表示をしてしまう可能性というのが、ものすごく大きくなる。もちろん、それを抑えていいシステムを作るというのは重要です。それ以上に、そのコンピュータが出した指示に従って全部取ったけど卒業できないという判定が出た場合は大きな問題であり、現状ではそこまでやる必要がないと我々は判断しました。

その次の④は、「聴講受付について、教育人間科学部では聴講票を持って云々と、それで学部間でいろいろシステムが違って事務同士が情報交換できているのか」というご質問だろうと思います。全学部の授業科目というのは、基本的には同じものです。つまり教育

人間科学部で開講されていようと、理学部のいわゆる学部規則等に盛られている授業科目であろうと、原則としては全学部に向けて開講されている授業科目です。

つまり、授業科目はすべて全学部のものだ、というのが新しい教育システムの考え方で、その考え方からは「聴講受付」のシステムそのものは、すべて同じになっています。原則はすべて同じで、Webから登録をする。それでWebからの登録授業は、修正だとか取り消しだとかの場合には、聴講票b票というものでやるというのが、全体のシステムになっています。

ここで書かれている教育人間科学部の聴講票というのは、教育人間科学部の中だけで通用している、学部内部での教育の観点から運用されているシステムです。それはそれで、教育人間科学部の内部での教育活動には必須なものとして行われているんだろうと思うのですが、そのことが他学部には理解されなかったというのは、多分そのとおりで、そういうシステムは全学部にはないとご理解いただきたい。

それから「各学部の事務同士が情報交換をちゃんとできているのか」ということについては、現状において、もちろん人事異動もありますし、毎年何回か連絡のための会合というようなものも開かれています。その辺は、あまりご心配ならないほうがいいのかなというふうに思います。とりあえず、ここで。

2. 質疑応答

(男子学生)

理学部だけなのかもしれないですけど。掲示板とWeb上の掲示板で共通の項目が掲示されていることが、いまいち徹底されていません。Webで見て、自分では情報を押さえられていると思っていても、掲示板だけにしか貼られていなかったりして、見落としたりする場面が多々あるので、できればWebならWebで徹底して貼る、もしくは掲示板なら掲示板でWebはなくしてどちらか一方に徹底してやるか、両方ともしっかりと押さえられえようようにしていただきたいと思います。

(濱口センター長)

はい、おっしゃることは非常によくわかります。最低限度どこを見ていけばいいのかということがはっきりしてないと、学生さんにとっては非常に困る、という趣旨はよくわかりますが、実情としてはそういうことも起こりうる、ことは想像がつきます。そういう問題は全体に周知して、これを見なかったから不利益がないように、ちょっと検討してみたいと思います。

(理学部男子学生)

理学部の渡邊といいます。新潟大学のネットワークのセキュリティの問題は、『大学全体の話』で質問すべきだったかもしれないのですが、今回ウィルス

が蔓延したという話を聞きました。2年前にも確か1回そういう話があって、コンピュータの授業の時に結局パソコンが全部駄目になり、授業が駄目になりました。大学内にウィルスが蔓延すると、学務情報システムに学外からつないだ時にも、感染の可能性というのは「無きにしも在らず」ですよね？そういう意味で大学のそういうところっていうのは、弱いというか、ご検討されているところはあるのでしょうか？お答えいただければと思います。

(濱口センター長)

要するに情報のセキュリティの管理が大学全体としてどうなっているかという質問ですかね？後藤先生、お願いします。

(全学教育機構：後藤)

私、全学教育機構の学務情報部門の後藤です。大学全体のセキュリティについては、正確かつ厳密なことはちょっと申し上げられないのですが、大学全体のネットワークという意味では、ご存知かもしれませんが総合情報処理センターという所で大学ネットワーク全体の設計・構築・セキュリティの管理といったものを一括して管理しています。学務情報については、全学教育機構で面倒をみて担当しています。そのシステムの中でのセキュリティについては当然、大学全体のネットワークの位置付けや方針等々も踏まえながら、考慮して設計しているということになります。

それで、大学全体としてセンター中心に管理しているという部分がある一方で、部局ごとに、部局単位といますかね、各部局で、ネットワーク機器その他、所有管理している部分が実はあります。えてして、こういった部分で実はそういう問題が起きる、あるいは可能性が高い。そうなってくると、大学全体としてしっかりしろと言われると、それはおっしゃる通りなんですけれども、一意的な対応は管轄の違いによって難しく、対応が遅れるということも「無きにしも在らず」という事情だけは一応ご理解いただきたいと思います。もちろん、その相互の連絡というのは、速やかに良くなっているところでございます。漠然とした答えですみません、私からは以上です。

(濱口センター長)

一般的には、かなり神経質に配慮してやっています。例えば、学務情報システムの情報が漏れたというようなことでもあれば、それはえらいことなので、例えば入試関係の情報などは全部切り離してやる、とかいろんな意味でかなり神経を使っていることは事実です。この間のウィルスもいろいろあったようですが、起きたところでできるだけ早く対応するという体制でやっていると思います。

(人文学部女子学生)

人文学部4年の朝妻と申します。「新学務情報システム」についてなんですが、私は新しいシステムになって、すごく使いやすいとは思っています。しかし、4年という立場では、夏休みの期間というタイミングで変わったために、先生との連絡が取れなくなってしまったというトラブルが起きてしまいました。

別な話にもなっていますが、図書館のアスベストも夏休みでしたよね。そういうタイミングについて、4年生が大変なのを皆さんご存知だろうと思うのですが、何故その時期になったのかをちょっと聞きたいと思います。

(濱口センター長)

「学務情報」の切り替えを何故夏休みにしたかということは、もともとは3月・4月という計画もあったのですが、いろいろ会計の問題等からして実は4月でなくてもいいよ、という話になったからです。実は学務情報等でいつが一番忙しく大変かというと、卒業前の成績処理のところと、4月・5月の新しい聴講の入るところ、それから8月下旬から9月にかけての1学期の成績処理のところと、後期の入力のところと。

じゃあ、どこで切ったら一番円滑かと考えると、4月からずらしていったということから始まったこともあるのですが、一番影響が少ないのは8月の頭で切って、8月の半ば以降に1学期の試験の成績等の入力が入りやすく円滑にいくように、という形がいちばんいいのかなあという判断であの時期になりました。従来の『学務情報システム』自体も実は12月まで裏では動いていて、そのへん重ねた形で万一何か起こってもというようなこともあって、8月にしたわけです。ただメールなどいろいろご迷惑をかけたというのは多少聞いていて、申し訳ないとは思っています。事情はそういうことです。1年のサイクルの中でいちばん被害が少ないであろうと思う時期はあの時期だった、ということでご理解いただけたらと思います。

【2】成績評価

1. 学生からの質問へのコメント

質問：

1) 評価方法の明確化について

①成績のつけ方を変えてほしい。今は絶対的な点数で評価をつけていて、難しい授業と易しい授業で点数に差が出る。クラス内での相対的な評価のつけ方にすれば難しい授業も聴講する人が増えるはず。(理)

②1回の期末で成績をつける講義があるが、なぜレポートなどで採点する材料などを多く設けてくれないのか。(工)

③成績の評価を各科目ごとにしっかりと表示してほしい。(理)

④教科書は買わない、講義には出席しない、テストだけ出てカンニングによって単位を取る人間をどうにかして欲しい。(工)

⑤カンニングをしている人が多い。(監督がゆるい)(経済)

⑥追試験で合格した人と本試験で合格した人の成績にあまり差がないのはなぜなのか。(医：保)

⑦成績開示について、授業によって成績開示が遅れる、あるいは受講者の一部にだけ成績が表示されるというようなことがあるが、成績管理に対する危機感が感じられない。どういう手順で先生からの成績を受け取り、学務が学務情報システムの成績を反映しているのかを明確に教えて下さい。また、それをチェックする体制があるのかどうか教えて下さい。(教育：要約)

⑧TOEICの点数で単位をもらえるというのが疑問。大学側の英語教育の手抜きに感じられる。(理)

2) 答案・レポートの返却について

①答案を返却しないのはなぜか。(経済)

3) 出席について

①出席をとる講義の場合、遅刻についてもっと厳しくすべき。(経済)

コメント：

成績評価でいちばん最初に理学部の方が言っていること(1)①は、実はかなり重いことです。重いことというのはどういうことかというと、大学での成績というのは、相対評価なのか、絶対評価なのかという議論があります。我々もできるだけ成績の付け方を授業の間であまり違いがないように、実はGPAだとかいろんな制度を導入しています。それがほとんど意味がなくなってくる、ということもあり、できるだけ成績の付け方に関して教員相互での一致点を求めるように、今腐心しています。

単純に偏差値のような形でノーマライゼーションをして、平均・相対化するというのも実は弊害があるし、学内にはものすごく大きな反対がある。それから、絶対評価が絶対正しいのか、各先生が付ける点数が絶対正しいのか、いろいろ問題がある。現状我々が考えていることは、なんらかの教員が一致できる成績のガイドラインというようなものを作って、少しずつ合わせていく努力をする、ということです。いろんな大学によっては、実は国立大学の事例ですが、非常に単純な相対評価で、平均点は何点に合わせるというようなことがされていますが、今のところ新潟大学としてはそういうやり方はあまり好ましくない、とは思っていないということです。

1) ②③は、1回の期末で成績を付ける講義がある

が、レポート等採点材料を多く設けてくれないとか、についてです。成績を付けるという原則は、教員が勝手にやればいいというものではないことは事実です。

今我々としては、各先生にお願いしていることは、シラバスに確実に書いて下さい、ということです。シラバスに書くというのは、いわゆる到達目標、つまりこの授業を受けたら何が・どういうことができるようになるよ、とそれが目的ですよということを正確に書いていただいて、本当にそういうふうになったかどうかを正確に判断できるような試験方法というものを取って下さいということをお願いしています。

非常に正直に言いますと、全学ではいろんなばらつきのあるシラバスが書かれています。そのために、各先生方にお願いしているのは、到達目標に対して判定基準があって判定方法がある、そういう精神でシラバスを作成し試験をすることです。場合によっては、第三者が評価した時にも評価に堪えるようなものとしてはいい、ということです。

現状にはいろんな問題があるということは多少は承知しております。学生の皆さんが、自分が適切に判定されていないと思う時には、遠慮なく先生に申し出て先生と議論をしていただきたい。これは、決して悪いことではないのです。

1) ④⑤は「カンニングの問題」ですが、「カンニングの問題はもっとちゃんと取り締まれ」とはなかなか難しい話です。もちろんカンニングをすることは悪いことです。それ以上に、現実にはカンニングをして何を得ているのか、問うべきです。学生さん個人個人が何をやっているのかというと、「単位を得る」ことが多分勉強の目的ではない。そうであるならば、カンニングをして単位を取得している人の場合、その人は不幸な経験をしていると言わざるをえないだろうと思います。この考えはある種理屈です。

できるだけ先生方にはカンニングをさせないような試験監督をして下さい、ということはもちろんお願いし、さらにしたいというふうに思います。

1) ⑥は、「追試験で合格した人と本試験で合格した人の成績にあまり差がないのは何故か」という質問です。実は我々頭の痛い問題は何かということ「追試験」という言葉と「再試験」という言葉の定義がいろいろな使われ方をしていることです。

「追試験」というものの正式な定義は、忌引き・病気であつたり、なにかご不幸があつたというようなことで試験を受けられなかった、不可抗力で試験を受けられなかった学生さんに受験機会を提供するということです。「再試験」と呼んでいるのは、一度不合格になった学生さんに対して、例えば一科目だけ不合格なので進級に関わる、卒業に関わる試験のことです。

今ちょっと微妙な時期ではあるのですが、正式にやる「追試験」は上限が原則としては80点、正式にやる「再試験」の上限というのは60点、ということでやっ

ています。正式の「追試験」「再試験」とは、成績を教員が出した上で、最終的な成績判定が行われたものについてやることです。それ以外に、私個人もそういうことがあるのですが、期末の試験をやった後でもう1回試験機会をインフォーマルに、つまり私個人の判断で最終的な成績をつける前にもう1回、2度か3度試験をするということがあります。これは各先生方の判断で行われ、その部分に関してはなかなか我々のほうでは手が出せない、というのは変な言い方ですが、各先生方の裁量の範囲ということになると思います。

そういう意味で、この1) ⑥を書いている人が「追試験」というのをどういう意味で使われているかわかりません。仮に正式な意味での「追試験」だとしたら、上限80点なので、例えば1回目の普通の試験で60点で合格した人より追試験を受ける機会で、例えば病気だとかの理由で追試験を受けた人が80点ということはあり得るということになります。

1) ⑦の問題はもう少し重いお話です。「成績開示」について、「授業によって成績開示が遅れてるとか、受講者の一部だけ成績開示されているというようなことがある。それは成績の扱い方がいい加減なのではないか。要するに事務管理体制の間でなにか起こっているのではないか。その辺きちんとチェックされているのか。」という趣旨だろうと思います。

これは、ずいぶん長いご質問だったので要約してあります。現在成績がどういうふうになっているかということだけ簡単にお話します。成績の入力というのは、原則としては各教員が直接Webで入力することになっています。だから途中で、いわゆる学務事務系の手でなにか処理をしてやるというプロセスが今はありません。「成績開示」の時に遅れているという問題は、まあ一部というのは去年、多少プログラムの問題が前のシステムであった時がありますが、通常は教員の入力のところで起こっている問題というふうにご理解下さい。成績がちゃんと入っているか入っていないか、つまり先生方が成績入力を終えているか終えていないかということに関しては事務的にはある程度把握して、入力が遅れている先生については入力して下さい、という働きかけはしております。ただ、どういう成績が入っていて、その入力されている中身が正しいか正しくないかということをチェックする機能というのは実はない。そこは各授業担当教員の責任ということになる。そこは責任分担の体制がこういうことだ、というふうにご理解いただきたい。

1) ⑧は、「TOEIC」の点数で単位をもらえる、というのは疑問である、大学側の英語教育の手抜きではないか、つまり本当は教えなくてはいけないことを外部の単位認定でやっているのはけしからん」というお話ですが、私個人としては理解できる部分もございます。ただ何故新潟大学で「TOEIC」というものをひとつの基準として単位認定をするようなことをやっ

ているかということは、ひとつの具体的な指標、つまり各学生さん達が一体どういう英語の能力かということと自分で計りながら勉学を進めていくのに、「TOEIC」、他にもいろいろな検定制度ありますけれども、そういったものを活用するということは、前向きに考えられるということで、そういうことをやっているということです。

このような制度というのは、別に新潟大学オリジナルではなくて、現在ほとんどの大学は、だからいいという訳ではないのですが、ほとんどの大学はそういう資格、そういうもので語学検定等の結果の単位認定というものはやっています。本学では非常に特殊なことをやってるものではないということ、勉学に対するインセンティブという教育的な観点でこういう制度ができていて、ということをご理解いただければ、というふうに思います。

2) ①は「答案を返却しないのは何故か」ということですが、現実には授業の一番最後に試験をやって、学生さん達にもう1回集まっていたくという機会がないという要因が一つあります。もう一つは、現在試験の答案というのは、原則としては5年間保存するということになっています。今のところ1ヶ所に集めて保存するというよりは、各先生方の手で答案は5年間は保存してください、ということになっています。答案を返さないというのは、隠しているという趣旨ではありません。もし見たいという学生さんがおられれば、当該の先生のところに申し出れば、見せていただけないという理由はない、というふうに思います。個人的には先日もある一人の学生さんから、答案のコピーが欲しいと言われて、ちょっとお話ししてコピーを渡した、という個人的な経験もありますが、そういうものだということです。

3) ①は、「出席をとる講義の場合、遅刻についてもっと厳しくするべき」ということですが。教員サイドから言うと、遅刻・欠席、特に近頃我々の感覚として非常に不思議だと思うのは、授業をやっている最中に何も断らずにスーッと立ってスーッと出て行って、またスーッと入って来る学生さん達の多さです。我々としても、極めて驚いているという状況です。

基本的には授業に出席する行為というのは自分にとってどういう行為か、ということを学生さんに考えていただきたい気がします。この質問の場合は、多分出席している人にとって遅刻して入って来る学生さんがうるさい、とかいうことなんでしょうけれども。

基本的には授業に出席するというのは学生さんの権利です。つまり勉強する権利の一つとして、学生さん達は出席している。だから、権利を行使していることは原則であり、欠席したり遅刻したりするということは、学生の皆さんが権利を放棄することなんだ、と理解していただくことが私の方のお願いといえはお願いです。

2. 質疑応答

(男子学生)

教育人間科学部2年の尾崎といいます。レポートについてなのですが、答案とかレポートとか自分が保存しておきたければ、自分でコピーを取るとか、先生にお願いすればいいのです。

私も含めて1年で入学した時に、レポートの書き方ってどういうものなのか、高校まではおそらくやっていなかったと思うのですよね。社会人である57歳の私もレポートの書き方、さあどうしようかなって随分困ったんです。それで、1年入学の時に多分スタディスキルという授業があると思うので、できたらどの学部でもスタディスキルの時間をうまく利用していただいて、レポートっていうのはこんなふうを書くといいんだよ、とか先輩方の良いレポートの見本でもあれば、雛型にして「こういうレポートを書けば98点なんだよ」みたいなものがもしあれば非常にわかりやすいと思います。

それからスタディスキルもそれなりの回数がありますので、例えば先生の研究室を訪れて、そこで「先生、答案見せて下さい。」とか「こんなのどうですか?」というような研究室に行く敷居を低くする工夫を先生方がしていただければ、これも非常に1年生にとっては有難いことではないかなと思います。

私もいくつかのクラス受けまして、先生の中には毎週レポート出せということで、そのレポートのフィードバックをして下さる先生もいらっしゃいます。大講義室の非常に大きいクラス、200人位のクラスでも毎回必ず何かメモ程度のものを先生にお出しして、それがまたフィードバックされる、という素晴らしい先生もいらっしゃいます。そういうのも含めてレポートのやり取りっていうのは非常に重要な問題ではないかなと思います。学生の我々も気をつけないといけないのですが、先生方も是非建学のポリシーであります「自律と創生」というところに私は非常に関わっていると思うのですが、その点是非お願いしたいと思います。

(濱口センター長)

おっしゃることはもっともで、スタディスキルズというのは今ほとんどの学部で行われていて、内容はいろいろ手探りでやっている部分があると思います。そういう意味では、今ご指摘があったようなことも重要な項目だろうというふうに思います。現実問題としては、レポートの書き方がどこまで仕上がり基準で、つまり1年生の段階でちゃんと書けるようになるというのは多分困難で、我々としてはある学年以上になったら書けるようになってほしいなあということを願っているというようなことだと思います。ちょっといい加減な答えですみません。

学生（男子）

理学部4年の鈴木といいます。何処で質問したらよいかわからなかったんですけども、多分これが一番近いと思って、ここで質問させていただくんですけど。他学部ではどうか知らないのですが、理学部で合格者、後期の60点以上の人を学籍番号で掲示しているのが結構あります。理学部とかは学科の人数が少ないので、学籍番号に匿名性がないんですよね。誰が落ちたか一発でわかるんです。それはあんまりよくないんじゃないかなってという話が僕が1年生位の時からずっと出ていて、あまり改善されないんで、ちょっとどうなんだろうなと思って聞きました。

（濱口センター長）

おっしゃることはすごくよくわかるのと、もう一つ、我々としては個人情報問題等もありますので慎重にやりたい。学籍番号で出すというのも一生懸命気にした工夫の先ではあるのですが、それでもいやだよという人がいれば、またそれに対してどういうふうにするか検討が必要です。そういう意見があったことは、どこかで周知するようにしたい、と思っております。

【3】教員の教授方法及び態度

1. 学生からの質問へのコメント

質問：①教員は必ず時間内に来て講義をして欲しい。

（経済）

②時間どおりに終わってほしい。（経済）

③大講義室での授業で、声の大きさや黒板の文字の大きさをしっかりとしてほしい。（理）

④講義中の私語に厳しく対処してほしい。（退出させてほしい）（経済）

⑤1回の講義に対して予習復習をする時間を講義時間の2倍やるように言われているが、そこまでやる必要がないように思われる。実際、自分も含め周りの学生は普段あまり勉強せず試験前に少し勉強するくらいである。しかし、単位はそれでも取れてしまう。その現状はあまりよくないと思う。（工）

⑥必要のない教科書は買わせないでほしい。（買ったがほとんど使わない事がある。）（理）

⑦同じ教官の方が担当される、それぞれの講義で内容が同じことがある。（理）

⑧介護実習でやむなく講義を休むことを伝えても欠席扱いにされる。（理）

⑨4年生を優遇するのはどうか。（経済）

コメント：

①から④の「教員は時間どおり来い」「時間どおりに終われ」「ちゃんと声を出して話せ」まではそのとおり

です。「教員は必ず時間内に来て講義してほしい」などという投書があると、こちらは頭が痛くなるのですが、もしこういうことがあるとしたら論外なことですが、ということにさせて下さい。

③「黒板の使い方・その他」というのは、なかなか難しいのですが、少しずつ授業手法・授業方法そのものの改善というようなことへの働きかけみたいなこともやってますので、そういうことで少しずつ改善させていくのかなと思います。

④「講義中の私語に厳しく対処してほしい、退出させろ」というのも現状においては多分それを教員がある程度きちんとコントロール、つまり教室の中をコントロールするのが教員の仕事なのかなというふうに思います。ただ、学生さん達相互でもできるだけやれることはやっていただけたらという希望も、私個人の体験としてもあります。

⑥「必要のない教科書は買わせないでほしい、買ったがほとんど使わない」というのは、なかなか微妙な話です。

⑤「1回の講義に対して予習・復習をする時間が講義の2倍やるように言われている。が、そこまで必要ないんだ、そんなことしなくても単位は取れる、というその現状はあまりよくない。」というのは、確かによくありません。

それで、よくないからどうしようかという話があって、例えば90分、15回の授業で2単位出ていますが、実体2単位分には対応しないから、そういう授業の認定は1.5単位か1単位で対応すべきかどうかというお話になるのかなと思います。つまり、1単位というものに対する講義時間、勉学の時間というものについては、全体として、つまり新潟大学で決める以上に親規定みたいなものがあって、ある程度基準があるということです。そういう問題であるということは、ご理解いただけたらと思います。

教員サイドで今我々の方でやっていることは、本当に講義時間の2倍勉強するように学生さんに働きかけるだけのものを授業の度にするよう努力しましょう、ということです。つまり、毎回、予習・復習、毎回なのかどうか、ともかくとしてトータルとして2倍位の自学自習をしないと駄目であるというような形、そして具体的にどういう勉学を自分でするかというようなことも積極的に教員の方から学生に示すことが必要ですよ、というキャンペーンを我々としてはやっています。

⑦は、「同じ教員が担当するそれぞれの講義で内容が同じことがある」という問題です。全く同じ内容の授業を違う名前でやっているというのは、かなり深刻な問題であろうと思います。位置付けの違う授業に関して言うと、内容が同じか似たような、基本的にはエッセンスが同じ内容のことを別な形で話されるということはあり得ることもかもしれません。

⑧「介護実習でやむなく講義を休むことを伝えても欠席扱いにされる」というのは、この欠席扱いがそれで具体的に試験を受けることが許されなかったという、ぎりぎりのことになる問題です。が、今の時点ではどう扱うかは、各教員の裁量に任されています。

さっきちょっとお話したように、勉強は学生さんの権利であるという観点からいくと、欠席扱いの問題というよりも、休まざるを得なかった講義についてもう一度先生に授業をしてもらいたい、或いは、なんらかの形で別にその授業時間の内容について勉強をサポートしてもらいたい、という意味ならば、教員にどんどん要求されればいいのかと思います。

⑨「経済学部で学生さんの4年生を優遇するのはどうか」という質問については、意味がわかりませんのでお許し下さい。もしここに参加されているのなら、補填的・補足的な意味を教えていただければ、何か答えようがあるかもしれません。

2. 質疑応答

(男子学生)

経済学部の星野です。今の⑨「4年生を優遇するのはどうか」というのは、4年生だからという理由で講義にも出席しない、プリントももらわない、テストだけ受けて単位を取るという学生が経済学部には多くいるので、そういうのをやめてほしいということです。聴講の人数を超えている場合に4年生から取るというのが多く見られるので、それはおかしいのではないかと思います。以上です。

(経済学部：柳)

濱口先生の代わりに、経済学部の学務委員長の柳がお答えします。今のようない意見を聞いたのは、私今回初めてです。学務委員会の方で今の件、取り扱います。

最初の事柄ですね、4年生について出席云々、レポート云々ということ言えば、私は平等に落しております。その趣旨が徹底するように、さらに学務委員会で他の先生を説得し教授会で申し上げます。

それから、第2点目「聴講受付」のこと。これは、私は聞いてないですね。基本的には専門科目で言うところの“落とす”ということはありませんので、全員専門科目は受け入れ、もし教室が小さければ大きい部屋に変えたりしています。そのような問題を直接私は聞いたことがありませんでした。もしそういうことがあれば、充分対応したいと思います。

(男子学生)

理学部の渡邊です。③の「黒板の文字の大きさ」に関する問題についてです。前期に私は大講義室で一般教養の授業を受けたのですが、その講義を担当された先生は、「あまり大きな講義室を使っていなかったん

だよ」と言いながら授業をやっていました。大講義室という問題を先生は配慮されないまま、いつも通り黒板を使い、つまり文字が小さいままでした。プリントが配布されず、「黒板を見て書いて下さい、それを使ってレポートテストをします」と言ってるのに、見えないというのは遺憾かと思います。

後ろの方は全く見えないので困るということを2回ほど出席の紙に書きましたが、それが全く反映されませんでした。書き方がなぐり書きみたいで、もう少しきちんと書けばよかったかもしれませんが、それでも、きちんと対応して欲しかったと思います。

(男子学生)

同じ質問で、今度は「字」ではないのですけど。大講義室Eの260で、マイクの使い方がわからない先生がたまにいます。その場合、「使わずにしゃべります」と言って講義をします。冬になると暖房を付けるので、後方座席では暖房の音が先生の声をかき消すのですが、先生は何も配慮をしてくれません。90分何も聞こえず終わったりしたことがありました。前にすわればいいでしょう、と言われたらそれまでなんですけれども。

この教室に限らず、他の教室でもマイクの使い方がよくわからないまま、マイクなしで講義をする先生がいるらしく、学生が集まった際にこの問題はよく聞きます。先生方にマイクの使い方を周知徹底してもらうか、わかりやすい説明書を置いていただけるといいのかなと思います。

(濱口センター長)

マイクの使い方はそんなに難しいことは実ではなくて、多分機械のスイッチを入れるのとマイクのスイッチを入れる以外は触らなくてもよいように、今の少なくとも教養校舎に関してはなっています。ただ、マイク自体の電池が切れている場合など、いろんなケースがあり得ます。

先生方には、そういう点に注意する必要があります。学生さん達も、遠慮なく「聞こえません」「見えません」とその場で先生に伝える必要があります。別にそれで不利益があることはない。仮に何かそれで不利益があったら、それは不平等な話です。そういうことで、先程どなたかもおっしゃってただけで、教員との敷居をあまり高く考えないで、きちんと先生方にも対応されればいいと思います。先生方には、全般としてそういうことに注意を喚起したいと思います。

【4】カリキュラム

質問：

1) 授業内容、数について

- ①聴講不可により単位取得が困難なことがある。
教養科目をもっと増やしてほしい。(理)

- ②聴講を希望しても、定員の関係上許可されないことがある。安易に抽選等されたのでは釈然としない。本当に興味があるかどうかを見てほしい。(工)
- ③学生の間では、単位を取り易い授業が情報交換されている。そのため人気が出て、本当に興味を持っている人が聴講出来ない状況が生まれているのではないかと。(理)
- ④人気の高い講義は、定員がいつも少なく、定員が適切ではない。抽選になった際に決まるまで時間がかかりすぎる(工)。
- ⑤教室について、授業に参加する人数や授業内容によってもう少し臨機応変に対応して欲しい。例えば、教室のサイズを理由に人数を制限するのはどうでしょうか(人文)。
- ⑥医歯系の物理学を、高校で物理を履修していない人が受けるのは難しいと思いますが、なぜクラス分けがないのですか。(歯)
- ⑦法学系の講義が、一応全学対象になっているのに難しい気がするのですが、レベルは下げられないのですか。(歯)
- ⑧卒論のない学部、学科は卒業単位を増やすべきでは。(理)
- ⑨大学の授業で印象に残る授業が少ない。(理)
- ⑩教員が(学部)学生を連れて学会に行くことは、大学のあり方としては当然のものとして認識すべきものですか。それとも理想像としてとどまっていますか。学部や学科・コースによってかなりの違いがあるようですが(教育)。
- ⑪各学部において、教養(もしくはGコード)科目はどんなものと認識していますか(専門科目につなげるためのもの、専門科目に関連させるもの、消化すべき単位など)。各学部の認識を聞いてみたいです。(教育)
- ⑫各学部において、卒業論文はどのようなもの、何のためにあるものとしてとらえていますか(大学生としての素養を確保するため、新たな発見をするため、形式上のためなど)。各学部の認識を聞いてみたいです(教育)。
- ⑬自分の単位がきちんと取れているか、アドバイザーが欲しい(工)。

2) 開始時間等について

- ①1限の時間が早い。(経済)
- ②昼休みが長過ぎますがどうにかありませんか。(工)
- ③講義と講義の間、学校の近くに住んでいない人が行き場に困る。(医：保健)

3) CAP制

- * 1学期に履修する科目を登録する際、その合計単位数に上限を定める制度。頭に帽子をかぶせて上限を設ける意味。

- ①CAP制がある学部とない学部があるのはどうしてか。(経済)

コメント:

質問1) ①～④は、いわゆる「聴講取りであふれる」という問題です。要するに、授業に関する需要と供給の関係がうまくとれていない、というご指摘になるかと思います。正直言ってなかなか頭が痛い問題です。例えば、具体的に言えば心理学関係の授業等のように、毎年聴講希望者が多くて常に抽選になっている授業があるということも、ある程度承知しています。各学年、各セメスター毎にあふれた率がどれ位か、300%あふれた授業とか150%あふれた授業とかいう、ランキングの表を事務の方で作っていただいて、今後の授業開設等に反映しましょう、ということで、できる限りフォローすることは検討しています。

ただ現実には、一つは、新潟大学の中でそういう授業ができる先生の数というのはどうしても限られているという問題があって、100%対応できないという部分があります。もう一つは、心理学を例にとれば、心理学を聞きたいという学生さん達の需要が本当の実需か虚需か、という問題です。要するに、期待されている聴講内容は本当の意味での心理学なのか、です。

近頃の精神的なというか、精神世界の話というのがいろんなレベルでいろいろあって、そういうものを含めてなんとなく心理学人気があり、この問題は実は新潟大学だけではなくて、日本中の大学の問題なんです。つまりそうすると、心理学の授業を取ったけれども自分の思ってた心理学ではないよ、という話が多いのも事実なんです。この点で、どこまで需要に見合うようにやるのが我々にとって正しいのか、ということも問題になります。

それから、新潟大学として我々が開設する授業のバランスみたいなもの、それは教育に対する我々の考え方も反映しているものになりますので、単純に需要の多い授業をたくさん開講することではいいとは思えません。以上のような理由で、我々はバランスを取りながらやらざるを得ないんだ、ということは多少ご理解いただきたいと思います。

それから、ご承知だと思うのですが、去年からいわゆる分野水準表示というのができていて、従来のGコード科目だけでなく、すべての授業科目について聴講可能な授業が増えていると思います。だから、その辺の授業を見ながら積極的にいろんな授業科目についてチャレンジしていただきたいと思います。

「聴講取りであふれる」という問題において、もう一つの論点は、「抽選というのがなんかいやだな、本当に安易に抽選等をされたのでは釈然としない」という1) ②の抽選問題です。

これは情緒的には非常によくわかるんですが、どうやって公平性を確保してやるのか。つまり、より聞きたい人、情熱を持ってその授業を聞きたい人を優先し

てほしいという思いが学生さんにはあるということは、わからないではないんです。わからないではないんですが、逆の意味で言うと、聴講受付に関して教員があまり恣意的なことをしない方がいいということもあります。抽選という方法もベストだとは全く思っていないのですが、教員の恣意的な選択ではないというような意味で、ある程度公平性を確保した方法として、今のところ我々が考えられる仕方がない方法の一つかな、と思っています。

「教室について授業に参加する人数や授業内容について臨機応変に対応してほしい」という1)⑤の質問は、確かにその通りですが、ただ、参加希望者が多いから大きな教室に移ればよいということではないだろうと思います。

多分あまりあり得ない例ですが、少人数の語学の授業に聴講者が100人来た場合、100人の授業に移るとするのは、もう授業そのものが成り立たなくなります。授業内容・方法によって、適切なサイズで授業をすることは重要です。そういう意味での人数制限ということもあり得るのだ、ということをご理解下さい。ただ一般的にはできるだけ希望に添うような努力をする余地はあろうかと思っています。

1)⑥の質問では、医歯系の物理学でリメディアル教育の必要性みたいなことが指摘されています。物理に関しては、特にいろんな動きがあります。高校で未履修の学生さんを対象に物理学が開講され、それを医歯学系の学生さんも聴講可能だ、というお返事をいただいています。

ただし、未履修の学生さん用の授業を受けるだけでいいのか、という問題があることもご理解いただきたい気がします。つまり、医歯学系等の物理その他は自然系共通専門基礎科目という科目区分に入っているのですが、それを例えば医学部・歯学部はそれを必修にしている。何故必修にしているかということ、その到達目標を達するということが専門科目に必要だからです。ただ物理の単位を2単位取るということを要求しているものではない、ということになります。だから、仮に未履修のクラスが用意されたとしても、その未履修のクラスを終わった段階で既履修の学生さんとほぼ同等の段階まで達しているのかどうか問題になると思います。そういう問題があるということは、ご理解いただきたいと思います。

1)⑦の歯学部の学生さんの質問は、「法学系の講義は一応全学対象となっているのに難しい感じがしているのですが、レベルは下げられないのですか」というものです。今法学系の授業は、すべて法学の科目コードとGコードと両方付いたような授業科目構成になっていることは事実です。それで、こういう意見があるということについては法学系の方にお伝えしたい、と思います。

1)⑧の「卒論のない学部・学科は卒業単位を増や

すべきでは」という提案には、私個人は全く同意しません。そういう問題ではなかろうというふうに思います。

1)⑨の「大学の授業で印象に残った授業が少ない」という指摘は残念だなというしかないですが、それは誤評価だと思います。

1)⑩の質問は、「教員が学部学生を連れて学会等に行くということは、大学のあり方として当然のものと認識すべきか、それとも理想像なのか、学部・学科のコースによってかなり違いがあるようですが」ということです。極めて一般論的に言えば学会等に行ってくるというのは、学問の現場に触れるという意味では意味があるだろうと思いますが、それを感じ受するだけの基礎的な能力がないまま行ってみてもほとんど意味がないだろうとも思います。しかし、学会のあり方そのものも極めて多様ですし、いろんなレベルの学会もあるので、これについては多分一概に返事というのはできないだろうと思います。

1)⑪は、極めて重要な、且つ難しい問題です。「各学部において教養科目がどんなものだと認識していますか」、「専門科目につなげるもの・専門科目に関連するもの・消化すべき単位などいろいろある」、それから「各学部の認識を聞いてみたい」ということは、それこそ全学部の先生方、責任のある先生方に来ていただいてシンポジウムをやるというレベルのお話ですので、ここで安易には多分答えられないだろうと思います。これは今の学部教育の中では非常に重要なことなので、こういう疑問を持った学生さん達は、むしろ積極的にその当該の学部、ないしは学科の先生に聞いて下さい。そこで是非活発な議論をしていただきたいというふうに思います。

1)⑫の質問は、「各学部において卒業論文はどのようなもの、何のためにあるものと捕らえていますか」、「各学部の認識を聞いてみたい」というものです。これも今お話ししたことと同様の話になろうかと思えます。

今ここにいる学生さんにとってもう手遅れだよと言われそうなのですが、近未来には各教育プログラム毎にこういうことを含めたステートメントをきちんと作っていただくようにしたいと今思っております。私は理学部の自然環境科学科という学科の担当の教員なのですが、例えば理学部の自然環境科学科ではどういう学生を育てるのだ、そのためにどういうリクアイアメントを付けて卒業要件を定めているか、というようなことが、学生さんにも社会にもわかるようなステートメントを各プログラム毎に作るということです。このようなことが重要だと今思っていて、これから取り組みたいと思っているということだけ申し上げておこうかなと思います。

最後の1)⑬は、「自分の単位がきちんと取れているか、アドバイザーが欲しい」ということです。今ほとんどの学部では、アドバイザー制度というのが動い

ていると思います。どの程度実質的に動いているかは、学部によって温度差があるかと思いますが、何らかの意味で担任制であるとかアドバイザー制というのは、ほとんどの学部で動いているはずです。

ですから、問題はむしろこの制度を実質化することであり、そういうシステムを学生の方から積極的に使うことが実は非常に重要なことですので、是非そういうことを活用して下さい。それと同時に、この問題はある意味では18歳を過ぎた大人としての自己管理の問題であるともお考えいただきたいところでもあります。制度としては、そういうものはあるということをご理解いただきたいと思います。

2) ①が問題にしている「開始時間」は、いろんな検討の結果です。だから8時半から今新潟大学では授業を始めていますが、その結果ということをご理解いただきたい。

2) ②が指摘している「昼休みが長過ぎる」というのは、実は昼休みに50分の授業を入れるシステム、「オナーズタイム (H. T. 副専攻等における授業時間帯)」を今動かしています。そのために、50分と前後の移動時間を含めた時間というのが昼休みの時間ということになっています。「昼休み長過ぎるからどうにかありませんか」というのは、そういう事情だということをご理解下さい。

2) ③の「講義と講義の間が空く」という問題は、CAP制等も一応しかけていますので、当然あり得ることです。その一つとして昼休みもある意味では、講義と講義の間ということになります。学校の近くに住んでいない人は行き場に困るというのは、そうだろうと思います。

つまり、大体5限まで行くと週に20コマありますから40単位近く取れるということになります。いろいろ学部によってCAP制は違い、22単位とか28単位の上限を設けています。例えばCAP制によって、40単位近く取れるうち、22とか28単位で制限すると半分近くの時間というのが空時間になり、そこから行き場が無いという問題が生じることは、我々承知しております。

それで、できるだけそこで自習ができるような部屋の整備を進めていきたいと思っています。現状では談話室等があります。談話室はわりに自由にできると思います。それから一定の節度を守った上であれば、授業が行われていない教室をそういう意味で活用いただくことは一向に構わない。そういうところでは何らかの意味での自習等をしていただくということをご理解いただきたいと思います。

3) ①の質問は、「CAP制がある学部とない学部があるがどうしてか」です。CAP制が導入されていないのは、今1学部ないし2学部です。私が教えている理学部では、いろいろ検討した結果CAP制はしないということを決めています。CAP制は導入すべし、という全学の方針はあります。ただ、具体的にどうい

うにCAPを導入するかということは、各学部の教育的な考え方があるので、各学部単位で導入するということになって、ある学部とない学部があるという結果になっているということです。CAP制がある学部とない学部という状況について、そこに何となく不公平感が感じられているというのもわからないではないのですが、その背景に学部独自の教育的意向があることをご理解ください。

2. 質疑応答

(男子学生)

開始時間についてなんですけど、今いろんな検討の結果と説明されたんですけども、自分のまわりで「1限が早くて得をした」という意見は全くもって聞かないんです。むしろ「1限が早いのはいやだ」という意見しか聞かないんです。いろんな検討の中に学生の意見は含まれていないのかな、というのをちょっと感じたんですけど。

(濱口センター長)

いろんな検討というのは、どういう検討をしたかということ、新潟大学は「夜間主コース」というのがあります。そうすると新潟大学として授業時間を設定するのに、1限から7限までの時間を設定している。それで1限から7限までの時間の7限のいちばん終わりの時間というのは、ある種の限界があって、その限界ぎりぎりに7限の終わりを設定した。そこから6限の始まる時間が決まります。それで、6限と5限との間というのは重ねるわけにはやっぱりいかないので、その間をとって順番に割り振ってきた結果、開始の時間が定まったのです。

8時半というのは、公序良俗に反しない範囲で異常な時間ではありません。高等学校等でも8時半から始まるということがあって、異常に早いわけではない。まあそういうことで8時半ということにしました。諸大学を比べてみると、新潟大学は確かに開始時間が早い。学生さんの意見というのは、大体想像がつきます。教員も不満たらたらです。

(女子学生)

医学部、川名ですけど。一般教養の成績は就職に影響するんですか？

(濱口センター長)

それはちょっとわかりかねます。が、希望としてはですね、そういうふうと考えてほしくないという気持ちです。つまり学生さん達に希望したいことは、就職に関係があるから頑張ろうとか、就職に関係がないからまあいいやじゃなくて、どこかの段階で大学に入った、どこかの段階で自分達がどういうふうになり

たいからこの授業を取っているという、つまり自分のキャリアパスみたいなものとキャリア計画みたいなことをある程度考えながらひとつひとつの授業に前向きに対応していただきたい、ということです。全然返事になっていないのは承知していますが、お許し下さい。

【5】授業評価アンケート

- 質問：①毎期末に授業アンケートを取るが、そのアンケートは教員に渡して終わりになっていないか。アンケートを反映した授業をする教員もいるが、改善が見られない教員には意味がないのでは。(理)
- ②授業アンケートをとっているが、反映されていないと思う。(経済)

【6】施設・設備について

- 質問：①自習室をもっと増やしてほしい。(理)
- ②授業料の値上げがあったのに、学生の生活(学校生活)は向上していないと思います。トイレにハンドソープを置いたり、エアアオルを置いたりしてほしいです。(農)
- ③大学構内に風呂を作してほしい。(農)
- ④教育人間科学部の定員20から30名程度の教室で授業を受ける際、いつも冬期は暖房が全然きいていない。授業料を払っているのにこの待遇はいかなものか。ちなみに学務の部屋はいつも暖かいです。教育人間科学部と工学部や医学部を見比べると明らかに教育人間科学部の施設・設備は劣っている。これもまた同じ授業料を払っているのだから何とかならないのか。考え方次第では、差別ではないのか。聞くとところによると、学部にある研究室、ゼミへの研究費が少なく、およそ教育とは関係のない「超域研究機構」にお金がたくさんいっているようだが、一体どういうことなのか。(教育)
- ⑤農学部の外装は改修しないのでしょうか。(農)
- ⑥研究室が狭いです。配置を換えたり、使用していない部屋を割り当てて欲しいです。(農)
- ⑦理学部の電気をつけて欲しい。(理)

【7】その他

- 質問：①実験に際して、隣接している教室などに配慮してほしい。(特に薬品のにおい・薬品のよごれなど)(理)
- ②学務の職員の方の対応が冷たく感じる。(全学も)(理)

- ③机等に自分の名前や住所、電話番号が何故か書かれていることがある。どうしてこんなことが起きるか不思議に思う(人文)。
- ④授業料をもっと安くして欲しい(人文)。
- ⑤学芸員の実習期間について3年でも実習に参加できるようにして欲しい。(人文)
- ⑥授業の制度を変える際、旧制度の学生に対してもう少し分かりやすい説明と制度変更をして欲しい。(人文)
- ⑦留学生と接する機会を授業でも増やして欲しい(人文)。
- ⑧経済学部の授業には法学部の学生が半分くらい混ざっていることがよくあり、今後経済学部と法学部の扱いをどのようにするかということが問われているようです。「人文社会科学系」という扱いにはなっているようですが、統合され、名称が変更されるのでしょうか。(教育)
- ⑨喫煙所の復活を(工)。

コメント：

【5】①は、「＜授業評価アンケート＞は何のためにやっているんだ、要するに何も改善が見られないじゃないか」というご指摘だろうと思います。「授業評価アンケート」については、特に今年からは全学一律の形でやることになりました。アンケート結果については、各先生方に渡すと同時に公開することで進めています。

その「授業評価アンケート」の結果の使い方として、実は我々は二通りあると認識しています。つまり一つは何かというと、その先生が自分で反省して自分で改善を図るということです。そのために、昨年1年間はGコード科目に限ってですが、先生方からも同じような授業アンケートを取ってそれを解析した上で、その先生がどの項目について改善をすれば学生の最終的な満足度が高くなる可能性がある、だからこの部分の改善についてご配慮下さい、ということをご各個人の先生方にはやりました。

それからもう一つは、授業は確かに個人が担当してやっているのですが、責任の所在は組織にあります。そうすると授業のパフォーマンスが悪いということは、組織としてやっていることが悪い。じゃあ組織としてどういう改善をするか。問題解決のためのツールとして授業改善アンケートを使う必要があらうかと思います。

私が知っている限り、昨年度については工学部と理学部では組織だって関係教員に関する授業評価アンケート結果の分析をして、各先生方が全体としてどういうふうに対応するかというようなことをFD等で検討して、それを取りまとめた文章、つまり今後の行動目標なんだろうと思うんですが、そういう文章の取りまとめが行われております。授業評価アンケー

トが全然フィードバックの効果が無いというものではないとご理解下さい。

「授業評価アンケート」について、匿名で書いていただくので、「あんなもの信用できない」という先生もおられるんですが、ここずっとやっている限りにおいては学生の皆さんは非常に良識的に「授業評価アンケート」に答えていただいていると思っております。そういう意味ではある程度、授業評価アンケート結果というのは意味があり、それを使ってできるだけ改善を図っていくようにしたいと思っております。

「授業評価アンケート」を受けて、先生方にも多分言い分があります。「この部分はこんなふうな評価をされているけど俺はそんなつもりはないよ」ということもあるし、「確かにそうだな」ということもあります。そこで、アンケートを受けての先生方の感想かコメントみたいなものをこの「授業評価アンケート」に付けて公表するという可能性についても、今ちょっと検討しているということです。

それから【6】「施設設備」ですが、まず①の「自習室をもっと増やして欲しい」という要望については、さっき申し上げたように、自習室を増やす必要があるということは認識しています。先端的な大学では、24時間オープンな自習室があって、その自習室に勉強の支援員・学習の支援員みたいな人がいるそうです。このような大学まであるのが昨今のご時世です。そういう意味では、自立して勉強して下さいという新潟大学としては、自習室の問題というのは重要な問題だと思っております。

【6】②は「授業料の値上げがあったのに、ちっとも良くなっていない。トイレにハンドソープを置いたり、エアタオルを置いてほしい」、③は「大学構内に風呂を作してほしい」といった要望です。大学構内にスーパー銭湯を誘致するってのは面白いかなとも個人的には思いますが、今の段階ではなかなか困難だろうと思います。トイレについては、比較的改修が進んでいる所や今改修が終わった所では、かなり立派なものできています。そういう意味では機会をとらえて改善をしているんだとご理解いただきたければなあと思います。

【6】④～⑦は、「教育人間科学部・農学部等から、それから理学部は電気を付けてほしい」というような要求、要望です。同じ授業料を払って、学部によって施設・設備に「不平等がある」という指摘がされます。今建物の改修整備については古い順にやっています。新潟大学の五十嵐キャンパスで一番古いのは理学部と総合教育研究棟で、その次はどこかはよく知らないんですが、今その総合教育研究棟の残り部分と理学部の残り部分に取り掛かっているところです。それが終わってから順次、先が詰まっていると後が進まないっていうのもけしからん話なんですが、順次やっていくということになります。実は学生さんにとっては、

自分が在学中に改修があったっていうのはちっともいいことではないんですが、順次進めているんだということしか、今の段階では言いようがないわけです。

それから、【6】④は「聞くところによると学部にある云々、学部にある研究室・ゼミへの研究費が少なく、およそ教育とは関係のない超域研究機構に金がたくさんいっているようだが、一体どういうことなのか」という教育人間科学部の学生さんからの質問です。

超域研究機構という組織では、超域研究機構に入っているからお金が付いているという事実はないと思っております。むしろ新潟大学の中で、ある程度先端的な研究が進んでいるグループを認証する、という趣旨のものというふうにご理解下さい。お金の観点に関して言えば、超域研究機構に取られているから他が貧しいということはないです。それから、超域研究機構がおよそ教育とは関係のない組織ではありません。超域の先生は大半が学部等の先生ですから、その部分の研究レベルを上げてそれを教育に反映させていく。新潟大学全体としては、先端的な研究を育てながら、全体のレベル・教育レベルを上げていくことは重要なことだと考えられているとご理解いただきたいというふうに思います。

【7】その他で、「実験に際して隣接している教室について配慮」という①の要望は、当然のことだろうと思います。問題は、次の「学務の職員の方の対応が冷たく感じる」という②の指摘です。このことは、毎回出ます。理学部自然環境の担当の私は、学生さんから「学務むかつくよな」って話はしょっちゅう聞きます。一方で、今の役目柄（学務担当副学長など）、実は裏から学務系を見ている部分もあるんです。その限りにおいては、学務の人達は非常によくやっているし、普段学生本位にものを考えてデスクッションシステムを動かしていることも事実です。学生さんからのこういう不満を受け取ると、どこにかけ違いみたいなことが起こるのかなと非常に不思議になるんです。しかし、こういう不満が出るには何らかの事実があるからだと思いますので、こういう意見があるということは重々伝え、学務の職員の方々にもできるだけ対応していただきたいと思います。

ただし、学生の皆さんに注意を喚起したいことは、学務の事務が対応できることと、教員しか対応できないということがあることです。学生さんの立場にしてみると、すべては大学ですから、それをすべて事務に聞きに行くことになる。そうすると事務の側で「これは先生に聞いてくれ、これは事務マターではなくて、教員マターだよ」ということはあり得ます。このように対応された時に、学生さんがどう感じるのか。

この観点から問題解決策を考えると、先程も言ったように、教員と学生との間の敷居を低くして、教員サイドが対応する体制をきちんと作っていくということが重要に思えます。アドバイザー制・その他担任制と

かあるはずですので、この問題の改善に資するように検討する必要があるかなという気がします。

【7】③「机等に自分の名前・住所・電話番号が何故か書かれていることがある。こんなことが起きるのか不思議に思う」という指摘は、私も不思議に思います。

「授業料をもっと安くしてほしい」という【7】④の要望には同感です。全く同感なのですが、しかし国立大学法人でできることは実は限られている。こんな余分な話をしているかどうかかわからないんですが、現在は我々が非常に気にしていることは何かというと、来年度予算で「国立大学の授業料の増」について財務省と文科省の間で議論をしていることです。もちろん財務省は上げたいと言い、文科省は上げたくないと言っている。論議がどうなるか、非常に気にはしていますが、授業料を増加する動向にあるわけです。

新潟大学独自の取り組みとしては、本当に微々たる数ですが、成績優秀者に対して、何がしかのお金を給付する奨学金制度を設けています。それから一時的な必要、つまり「あっ今お金ないよ」というような時に一時的にお金を貸与するシステムというの、去年整備しました。もしそういうレベルで困っていることがあれば、該当の窓口で相談していただきたいと思います。

【7】⑤は、「学芸員の実習期間について3年での実習に参加できるようにしてほしい」というご要望です。学芸員の資格を得るためにはいくつかの必要な単位があり、学芸員として最低限度の知識を持った素養がある人でないと、学外の施設に行き実習して来てもらうわけにはいかないという事情があります。そういう事情から現在、結果として実習参加は4年次がいいと判断し、実際に4年で行って下さいということになっています。博物館実習も教育実習も同じ面があるのですが、学外実習は、大学と学生と、それからそれを受け入れてくれる社会側の部分との間の一種協力関係で成り立っています。インターンシップもそうだと思います。我々としてはできるだけ学生さん達がやりやすいような制度にしたいと思いますが、そういう制約があるということもご理解いただければと思います。

【7】⑥の要望は、「授業の制度を変える際、旧制度の学生に対してもう少しわかりやすい説明と制度変更をしてほしい」というものです。おっしゃることはよく理解できますし、我々も制度改革をする時には、旧制度の人が授業を取ることができるように、どういう対応をするか、授業単位についてはどう読み換えるか、については必ず検討しています。ただ、説明が不足だというご指摘については、今後また検討していきたいと思っています。

【7】⑦の要望「留学生と接する機会を授業でも増やしてほしい」については、「授業でも」という意味がちょっとよくわかりません。以前には、留学生が半分日本人の学生が半分というような授業、そこで交流

するような授業も確かに設けられていました。一般に、日本に來ている留学生の人は留学生同士で交流しているように見えます。うちの学科に留学してきたような学生さんでも、どうも仲のいい女の子はやっぱり留学生の仲間でした。それは何に起因するのか、なかなか難しい話だなあって思っています。学生さんの側も、もう少し積極的に留学生に対応していただきたいと思っています。いろんな留学生の方おりますので。

【7】⑧「経済学部と法学部云々」という質問があります。これは柳先生が居られますが、経済学部と法学部を統合する具体的な計画があるとは思ってないんですが、それでよろしいですね？

最後に【7】⑨の「喫煙所の復活を！工学部」の要望がありますが、これは論外です。以上です。

【全体質問】

（女子学生）

教育学研究科の1年引場と申します。「施設設備」のところなんですが。私は現職で大学院に行きまして、いろんな方に会ったところ、教育に関する設備とか予算に関しても、他と比べるとちょっと、うーん、非常にどうしてかなあっていうところがあるのを感じていました。ここでどなたが書いたかわからないんですが、非常に「超域研究機構」というところにたくさん行って、それが原因じゃないかという指摘があったんですね。それで、これについて2点お聞きしたいと思っています。

まず先程「先端の研究に関わる場所にお金がいっぱい使われている」という発言があった気がします。これに関して濱口先生がお考えの部分で、超域研究機構と理学部との違いという意味ではないと思ったのですが、その辺の点と、先程全体の教育の構造につながるものであるというお話がありましたが、実際に超域研究機構は何なのか、一体どれ位予算が使われているのかわからないので、その辺についてお聞きしたい、と思います。

もう1点は学務の件ですが、私は教育学研究科で非常によくしていただいています。4月に初めて来た学生さんに対しては、職員の方は、逐一手取り足取り、一生懸命質問には対応しています。しかし、職員の方の数が仕事量に比して少ないことは、大きな問題ではないかと感じました。以上、お願いします。

（濱口センター長）

超域研究機構での先端研究にお金がいっぱいいるということを申し上げたつもりはないんです。「超域研究機構」というのは、システムとしては原則として、いろんな例えば科学研究費であるとか、委託研究であるとか、研究自体は自分たちで稼いでやることになっています。ですから、いわゆる学内公費を「超域研究機

構」のプログラムに対して出していることはありません。「超域研究機構」は、基本的には外部資金を自分達、つまりそれぞれの超域の先生方が自分でアプライし自分で取ってきたお金で研究を進めるシステムになっています。

ただし、実は新潟大学には今いろんな意味でのプロジェクト研究経費というものが用意されています。それはいわば、大学の中での科学研究費みたいなものです。このプロジェクト研究経費に対しては、超域研究機構であろうと普通の学部の先生であろうと大学院の先生であろうとアプライできて、その中から何らかの審査によってお金がおりるというシステムもあります。

だから、超域研究機構そのものを目の敵にする理由はないんですが、大学全体として研究費と教育費の配分について問題はあろうかと思っています。こういうことを言うといかにも役人的答弁でいやなんです、運営交付金という制度があり、経費は基盤教育経費と基盤研究経費に区分されています。基盤教育経費は、教育に使うべき経費という形で配分されています。総額について各大学間での比較がある程度できるデータがあります。日本の大学の中で言えば、新潟大学は基盤教育経費が非常に多い大学、つまりその統計を見る限りにおいては新潟大学は教育関係にお金を費やしている大学です。ただし、基盤教育経費と称しているのがどのような費目かは、大学によって多少違いますので、単純に言い切れない部分があるかと思っていますけれども、形式論理的には本学は教育経費が非常に多い大学になる、と説明しておきます。

先端的な研究をすることによって大学全体の教育レベルが上がるということに関して、具体的に説明するのはなかなか難しいんですが、ただ、高等教育機関の役目は基本的には教育と研究、つまり研究活動を教育に活かしながら教育改善を図っていくというものです。大学というところでは、やっぱり先進的な意味で、先進的になっていくのはいろんな意味でサムシングニューですが、何か新しいものを求めて何かをしようというアクティビティがあることは必要ですし、すべての先生はそういう活動をされているわけです。そのレベルが上がってくれば自ずと教育も上がってくるんだ、という極めて一般的なお話として申し上げたということです。

最後の事務職員の定員配置の問題はなかなか難しい問題です。定員数はものすごく減っています。つまり、事務職員の数と教員の数については昔からの率みたいなものがあるんですが、最盛期の新潟大学全体の定員配置からすると、国全体の方針もあって実は事務はものすごく減っています。教員は近い過去まで純増してきた。学生の数の増加に応じて教員数を増加させてきたんですが、それに比して事務は一時の半分とか三分の一とかという数で、いろいろな工夫をして合理化をして凌いでいるというのが現状です。その辺をどうい

うふうにするかというのは、なかなかおっしゃるように難しい問題だと思います。

(男子学生)

これから私仕事に戻らないといけないので、いくつか質問とお願いをさせて下さい。皆さん要望が多いですが、人・物・金のうちのものですぐできるものからお願いしたい。例えば、「石鹸置いて下さい」、「ハンドソープ置いて下さい」というのは少しお金はかかりますが、是非健康管理のためにもこれからすぐやっていただければありがたいかなと思います。教育棟については、「暗い・汚い・寒い」の3拍子がそろっているという学生評は、ちょっと我々の間では有名なんです。お答えのように予算がありますので、順番はあると思いますが整備をしていただきたいと思います。トイレが綺麗になったのはとても素晴らしいことで、私たち喜んでおります。

次に、私が所属している「健康スポーツ科学」では先生方が続々という感じで退官されていきます。その後の補充がなされる気配がない。それに対して説明が大学側から無いので、個別に先生方にお聞きすると、「いや、まあよくわからない」というお返事です。大学は大学で一種のリストラ計画をお持ちなのでしょうが、我々からしてみれば、教育の質と量を落としていただいているのは困る、というのが本音です。できるだけこの辺も、明確に情報公開していただきたいと思います。

それから「授業評価アンケート」についてなんですが、私毎回アンケートの最後のところに「このアンケートが何処で閲覧できるのかをアンケートの最初の段階で明記して下さい」とお願いしているのですが、まだ改善されておられません。やればやりっぱなしというのは、いちばん良くないことで、私昨年と同じようなことをこの会合でお話したと思うんです。

そういうことも含めまして、情報公開をお願いしたいと思います。例えば、体育館の更衣室が荒れ放題、トイレが汚い、公開講座なんかがあって、外部からいろんな方がいらしたのにトイレにお連れするのがちょっと恥ずかしいような状態もあります。これもいろんな都合があって、すぐには改善できないでしょうが、計画性をもってやっているんだということを情報公開していただければ、「あーっそうか、そういう順番なんだな」というのがわかると思います。情報公開をいかにうまくやるかっていうのが、学生と大学の相互理解を高めることになると思います。今ちょっとそれがまだ不足しているのではないのかなという気がします。

それで最後にひとつお願いですが、この対話集会のフィードバックがどういうふうになされるのか、どんな形で、どこでそれは閲覧すればいいのかというのが明確になされることによって、我々もモニターすることができずし、それについてまた真剣な議論が進んでいくのではないかと思いますので、あれこれ言いま

してすみません、よろしくお願いいたします。

(濱口センター長)

おっしゃっていること、一々ごもっともだと思います。この対話集会に対するフィードバックは、大教センターが発行する「FDニュース」に第1回から第5回まで対話集会の概要を出す形で行なってきましたし、第6回以降は『大教教育年報』に取りまとめております。情報公開の場としては、『大教教育年報』は学生さんからはアクセスしにくいものかもしれませんが、それをなんらかの格好で学生さんがアクセスがしやすい場所に出すような努力をしたいと思います。

それから「授業評価アンケート結果」については、今までは図書館だとか、各学部だとか、学生談話室などの要所には冊子を配置していました。それで、今後はですね、Webにすべて載せます。

退官の先生の後の問題はごまかしたいという意味ではなくて、答えようがないのでお許しください。検討します。

(女子学生)

教育人間科学部の竹内です。よろしくお願いします。今ほど二人の方から言われたことと、とてもかぶってしまうんですけども、この場を借りてどうしても言いたいことがあります。

私の研究室ではまず卒業論文を買うための本を揃えてほしいと思って、全く揃えてもらえません。後、同様に雑誌なんですけれども、これも全部揃えていただけなので、学生が自己負担という形でやっているのが現状です。ただ、これにはものすごく限界があって、新しい図書はどんどん出てくるのにそれが全く買えないというのは、私達としてもとても不満です。

さらに研究室のことで言うと、電気が蛍光灯を取り替えてもチカチカしてものすごく目に悪いんですよ。勉強している時でもチカチカして、今消しているんですけども、本当に暗い部屋で勉強しています。それを学務に直してほしいというふうに言っても、何にも反応が返ってこないの、何回も言いに行ったんですけども、対応してくれません。ブラインドが落ちかけていて、すごく危なくて、今にも一気に下に落ちてきそうなんです。今まででも何度か片方ずつ落ちてきていて、すごく危険なので直してほしい、というような旨のことを言うと、それは研究室費でやってくれと言われたんですよ。それは研究室費でやるものなのかなあとすごく疑問です。

更に言うなら、その研究室費を私たちは少ない中で本を買うためとか、雑誌を買うためにものすごく切り詰めてやっています。本や雑誌が買えないので、全部印刷でやろうと思うんですけども、実はこの印刷ということも自分達の中でお金を集めてやっているのが現状です。先程、基盤教育研究費が非常に多いとおっ

しゃったんですけど、私達からみて、そういう辺りがどうなっているのか全くわからないままやっているのは、どうしても納得がいきません。最低限、雑誌・本などを保障して欲しいというのが本音です。よろしくお願いします。

(濱口センター長)

なかなかお答えがしづらいものだと、実は思っています。つまり雑誌・本については、勉強に必要なものであっても、無論大学として揃えるべきものと個人が揃えるべきものなど、いろいろあるわけです。それで、最終的には会計単位は研究室単位になっていて、研究室単位には教育人間科学部としてある種の割合で配分されている。配分された額内で、例えば我々みたいところなら本を買うのか、それとも実験用の薬品を買うのか何を買うのかというのを研究室として判断してやりくりし、ひとつの会計をしている。そういうことなので、一概には言えないという言い方しかないんだろうと思います。

ご指摘は、必要最低限度のもの、ミニマムリクアイアメントが保障されていないということだろうと思うんですけど。現実には、何ていうのかな。例えば今理学部の場合は、我々の許に公費でくのお金の額は極めて少ないです。だから、雑誌はもちろん買えないのですが、最近ではほとんどのものが、電子ジャーナル化されているので、電子ジャーナルでとれるということで多分、雑誌は済んでいる。その代わり、遠い過去から、例えば理学部の図書室なり何なりで、ずっと継続して購入されてきたものは全部オンライン化されてどんどん落ちている、という状態があることは確かです。だけど、それは結局、会計単位としてどこにお金を使うかという問題の部分があるのかな、という気がします。あ、ご不満は残ると思います。

それから電気の話は、多分それは別問題ですよ。建物設備の問題ですから、器具自体がおかしければ、それは建物を管理しているところで、きちんと言えば対応してくれる話ですし、電球を替えればいいことならば電球を替える。それから、器具を替えることならば、きちんと事務に言えば、そういうことは、最近では割に的確にやってくれます。だから多分、研究室から事務へのルートの問題もあるのかなという気がふとします。本当に事務に言ってるの？

(女子学生)

.....

(濱口センター長)

それは、何とも言いようが無いですよ。それぐらいいいですか？教育人間科学部の先生いらっしゃいます？ちょっとまた教育人間科学部の先生とも相談してみてください。

(女子学生)

研究室費は割り当ての問題だ、とおっしゃったんですけれども。どんどんどんどん毎年、その研究室費が減らされていって、今までとっていたものができなくなったり、今までやっていたことができなくなったりしているんです。割り当ての問題ではなくて、研究室費が本当に減らされているというのは、どうしてかをお答えいただけるとうれしいです。

(濱口センター長)

実は、学部によってお金の配分の仕方等は事情が随分違うんですね。それで、あなたが研究室費と言っているものは、あなたが所属している研究室の教員に割り当てられているお金という意味なのか、どういう意味なのかちょっと僕にはつかめない。

基本的には研究室に配分されて以降の諸々の費用については、指導教官等の袋の範囲内で、いろんなことがやられていると思います。理学部等はそうなんです。それでももちろん、学科なら学科として共通のお金みたいなものはもちろんあって、学科共通でやるものというのはあるのですが。研究室単位になれば研究室の単位でのお金の出し入れでやる。だから、ある意味ではその部分になれば、その指導教員なりの責任の範囲内でやられていることのように私は思えるんです。だから、あなたの言っている、研究室費が減ったというのは、教員に対して配分される研究費が減ったという意味をおっしゃっているのか、その辺がちょっとよくわからないんですが。

(女子学生)

研究室費ではなくて、教育人間科学部への予算配分についてご質問したのです。それぞれの学部の研究の内容に応じて予算がきて、各研究室に分配されます。教育人間科学部への予算自体が、他の学部と比べて、全体としても多分減っているのではないかなと思うんです。今の時代なので、配分されてくる予算自体についてお聞きしたいと思います。

(濱口センター長)

各学部配分する部分に関して言えば、すべての学部にはそのレベルに応じて均等に行われています。だから、教育人間科学部が減れば、理学部も工学部も農学部もすべて減っているという状況です。配分方法は、教員一人頭いくらか、学生一人頭いくらかというような基本的な計算方式に基づいています。昔は、例えば理系と文系との間で差をつけたり、というようなことがあったのですが、今は理系と文系との差もなくて均等に割っているんです。積算根拠は均等になっていますから、教育人間科学部だけが何か他と比べて、つまり教育人間科学部にいてる分が減って、他の学部がその分相対的には増えている、というような事態と

いうのは一切ないです。その辺は信用して下さい。

(女子学生)

人文学部の安住と申します。よろしくお願いします。理学部の方から、学務の職員の方の対応が冷たく感じると指摘されていました。私人文学なんですからけれども、特に人文学部の学務の方の評判が本当によろしくなくて、他学部からもすごく言われる位なんです。

私の感覚としては、対応はとても優れていると思うんですが、多分態度の面でとても損をしていると思うんです。対応はとても的確なんです、いつも。掲示板にこうこう、こういうふうに書かれているからこうすればいいですよ、というように対応は優れているんです。態度の面でとても損をしているので、その辺はもったいないので改善すべきだと思います。

(濱口センター長)

ありがとうございました。

(女子学生)

歯学部1年の島方です。来年から旭町のキャンパスになるんですけれども、授業がぎっちり詰まっていて、学校で昼食を取るしかないのに安い学生食堂が無いという話を先輩から聞いています。生協も大きくないので、向こうの学生は五十嵐に比べてちょっと不便なのかなって思うことがあるんですけれども、改善される予定がありますか？

(濱口センター長)

どう、答えたらいいかわからないんですが、その点に関して、今現在、具体的な計画は無いというお返事でお許し下さい。

(男子学生)

教育人間科学部の河合と申します。先程も出ましたが、学務の人のことについて言いたいんですけれども。

私は学務の人の対応が悪いと言う評判については、半分、学生のシステムの知らなさっていうものがあると思います。いろいろ、やっぱり本に書いてあれば、本に書いてあって、読めばわかることとかもあると思うんです。それを一々大勢の人が、例えば、新入生の人とか、4月とか5月に大量に学務のところに来るので、学務の人でも人間なんで疲れると思うんですよ。

その原因を考えると、私も2年生ですが、教育人間科学部で1年生のオリエンテーションの時に説明がほんの10分か20分位で「はい、本を読んでおいて下さい。」で終わってしまったことにあるような気がします。もう少し立ち入ったというか、もう少し具体的に説明をしていただければ、学務の人の負担も後々減ると思うんですね。そういうところをまず改善していただければ、と思っています。

先程、先生ができることと学務ができることという話をさせていただきました。私も成績のことについて今回質問を書いたんですけども、成績については先生の方に聞きに行けばいいということは先生のご回答でよくわかりました。まず私は学務の方に聞きに行ってしまったので。

学務の方の対応としても「じゃあ、それはもう先生に聞きに行ってください」と、ある意味突き放していただければいいと思います。「じゃあ、私の方でも聞いてみます」的な、曖昧な態度をされてしまうと、「あー、じゃあそうですか」となってしまいます。親切にさせていただくのはとても嬉しいんですけども、突き放していただくところは、「はい、じゃあもう、先生に聞いて下さい」で、もう全然それはこっちとしては全然OKなので、そういうところを改善していただきたいと思います。

(濱口センター長)

はい、ご指摘いろいろありがとうございます。1年生のオリエンテーション、ガイダンスについては、我々も問題を感じています。それで、できれば学部とかユニットによって、そのやり方の違いというか、丁寧さみたいなものがあまりに違いすぎる、というようなこともある程度伺い知っているので、できればその辺の、最低限度こういうことはやりましょう、というような形での標準化みたいなことをやりたいと思っています。本当は昨年度やろうと思ったんですが、ちょっと準備がしきれなくて、やれないまま4月になっちゃったんです。その辺は少し改善したい。おっしゃる通りだろうと思います。

(女子学生)

人文学部4年の朝妻です。私は、今「比較社会文化履修コース」という今年で無くなってしまうコースにいたのですが、西洋史について勉強しています。

図書館に西洋史に関する本が少ないということが、まず大前提としてあるのかもしれないんですが。そのために、いろいろ他の大学から文献を取寄せたりしています。その時に、どうしてもコピー、印刷が必要で、普通にコピー機を使ってコピーをするとすごくお金がかかります。

それで、できれば人法経の印刷室を利用できたらいいなあと思っています。卒論で使用させてもらえないかなと。また、ゼロックスの使用枚数が10枚以内ということになっているんですが、人文学部の人にはわかると思うんですが、10枚では論文や本をコピーすることは無理というか、もっと必要です。今は利用できずに、先生から先生のコピーカードを借りて了承を得てコピーさせてもらっているという現状なので、できたら改善してほしいなと思っています。

(人文学部：藤石)

人文・法・経済学部の学生については、今後援会という組織がありまして、そこから補助が出ております。印刷は課外活動とか個人的な印刷はちょっとご遠慮願っていますけれども、自分の教育とかゼミのために使う印刷については、教員の承認があれば、学務に出せば印刷機は使える形になっておると思います。それから大学院生のコピーは10枚ではなくて、もっと多いはずだと思います。それも学部の予算の中で面倒を見ているので、ある程度、無制限にコピーというのは使えませんが、10枚ではなくてもっと多い設定になっているはずかと思うので、その辺は学務に確認していただければよろしいかと思います。

(女子学生)

すみません、私は院生ではないので、学部生です。毎度行く度に、学務の方から「10枚以内でお願いします」と、「何枚で印刷するんですか」と聞かれて、正直なところ守っている人はあまりいない、という状況です。

(人文学部：藤石)

10枚というのは、それ以上にした場合リソグラフの方が安いから、コピーは10枚までにしてくださいということです。原稿が10枚ある場合もちろん10枚とってもいいんですが、1枚の原稿で10枚以上とると、非常に経費がかかるわけです。そういう場合は、印刷機のほうをご利用下さいという意味です。

(人文学部：斎藤)

すみません、遅れて来て。えーっと今の最後の説明でいいと思うんですが。つまり教員も学生にプリントを作る時に、1クラスが10人以下だったらコピーを使いますが、10人以上だったらリソグラフを使って印刷してることになっています。その10枚の意味は、本を例えば100ページとるな、という意味ではなくて、ひとつの自分の作ったプリントを学生のゼミ生の作る時に、10人以上だったらリソグラフを使ってくれということだと思います。わかりますかね、それは？それで本のコピーは、いい先生に当たる時とそうでない時ですごい差が出ていると思います。先生がコピーカードを貸す場合と自分のお金を払ってコピーしなさいという両方があると思うんですが、ただよく考えていただくと、学生さんが1学年200人いて、その人の全員のための卒論のための本をコピーしだしたらですね、おそらく足りなくなってしまう。そこは先生方も自腹を切って本を買っているの、必要についてはお金を出して下さい、というお願いというかになってしまうかなと思います。ということなんですけれども。よろしいでしょうか？あと、まあ先生と相談して下さい。

【総括】

第7回学生と教員の対話集会での論議は、新潟大学の運営方針への問いに始まり、新学務情報システムやセキュリティ問題、成績評価の方法、授業方法・内容、学務窓口の対応への不満、施設整備や教育経費の配分問題にいたる様々な問題に及び、大変活発でした。集会の終わりにある学生が学長選挙問題を論題にしようとしたことが、教育改善を目的とする集会の趣旨に合わないことを認めて取り下げ的一幕もありました。

これまでの論議と異なる点は、外国語教育への不満が出なかったことです。この事実は、外国語教育の改革が上首尾に行われていることを物語っています。例年のように繰り返された指摘は、板書の字の見にくさやマイクの使用に関するもので、学生と教員間のコミュニケーションが改善されないことを示しています。

これまで必ず論題にのぼることは、聴講取りに苦勞する人気授業への対策や自習室の少なさ、オリエンテーションやガイダンスの不十分さであり、これらが今後重要な課題であることが認められました。

具体的には以下の事項が、今後の課題として残されています。

(1) 情報公開の改善：

- ① 掲示板とWeb上の情報の二分や偏りを是正する。：

学生向けの連絡が二分して不徹底に行われているために、重要な情報を見過ごす問題が学生サイドから指摘されました。

- ② 授業の制度を変えた場合など、学内の変化について学生サイドに十分な説明や情報が得られるよ

うにする。

- ③ 授業評価アンケートの結果について学生がアクセスしやすいように公開する。

結果に対する教員のコメントを付記し改善を図るフィードバック方法を検討する。

- ④ 対話集会の報告は、学生がアクセスしやすいように公開する。

(2) 事務職員の対応問題

アドバイザー制や担任制を活性化させ、教員が対応すべき事柄はこの制度を活用させ、事務職員の負担感を減らす。学生に適材適所で対応できるようにする。

- ③ 新入生オリエンテーションや新年度ガイダンス：効果的に行われるよう、標準化するなどの対策を検討する。

(4) 聴講許可問題：

人気授業の超過率ランキング表を作成して、授業の開設法を改善するなど、聴講許可問題に対処する。

(5) 授業の事前準備の徹底：

大講義室ではマイクを使用し、授業の事前準備として特にマイクの電池切れがないように、周知させる。

(6) 成績結果に関する掲示について：

学籍番号の掲示でも個人が特定できる場合があるので、個人情報に配慮する。(理学部)。

- (7) 全学向けの法学系の授業は、レベルが高過ぎて多様な学生への配慮が欠けているので、改善する。

- (8) 聴講許可を4年生優先にすることがないようにする。(経済学部)